

景況調査

報告書 NO. 61

平成25年 10月～12月 実績
平成26年 1月～3月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成25年度第3四半期(H25. 10～12月)景況調査

1. 調査時点 平成25年12月9日～25日

2. 調査対象

- (1)対象地区 蒲郡市内
- (2)対象(回答)企業 107[100企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	46 (3)	10 (2)	14 (1)	20	9 (1)	8	107 (7)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比は0.0、前期実績(7～9月・△16.2)に比較すると16.2ポイントの上昇、改善の傾向が見られ、前年同期比では△5.6、前期実績(7～9月・△18.9)と比較すると13.3ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で13.1、前期実績(7～9月・△13.5)に比較すると26.6ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△4.7、前期実績(7～9月・△23.4)と比較すると18.7ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**総合判断来期(H26.1～3)見通し**については△14.1、今期の実績(全業種(当期実績)前期比0.0)と比較すると14.1ポイントの下降であった。

「**製造業**」のうち**食料品**は、年末の需要期に入り売上は好転。織物は、春夏商材の寝装品はシーズンオフに限らず活況。インテリア・ドレープカーテンは相変わらず悪い。漁網・ロープは、復興需要は終わりやや不調。建築関係は首都圏中心に動きあり。土木は堅調。自動車関係は昨年比で微減。鉄工のうち、工作機械関係の国内生産の現状は、消費税増税前の一時的な駆け込み需要もあり、9月以降内需が著しく増加。自動車関係は、生産台数は堅調で近年のピークに近づく勢いであるが、原価低減活動により収益は厳しい。化学・プラスチックのうち、化学は円安、原油高、さらに11月に発生したフィリピン台風の影響による原材料価格の上昇によって収益性が悪化。プラスチックは売り上げは順調に増加しているが、原材料高と円安で採算が下降気味。

「**建設業**」は、夏以降工事量は大きく増加するも、資材不足と高騰および人手不足が不安材料。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は、＜産業資材関連＞アベノミクス&東京五輪効果、消費税増税前の駆け込みで荷動きが活発も、円安による原材料高で売価への転嫁が進まず利幅縮小。＜寝装関連＞厳冬に比例して売上は増加も、円安による原材料高で利幅縮小。＜インテリア関連＞インテリアは秋冬のシーズンインで出荷量増加。円安で商品調達コストが増加し利幅を圧迫＜衣料関連＞衣料用生地で付加価値商品は好調も、資材・寝装用生地は原材料高で苦戦。

「**小売業**」は、依然として消費意欲は停滞気味で、景気回復が個人消費に繋がるのはまだ先か。飲食は景気回復感もあり、例年より若干の増加傾向にあった。石油等その他小売は中東の地政学リスク緩和で原油価格は安値で推移。

「**サービス業**」のうち**旅館関係**は、忘年会シーズンで動きはあるも、トヨタ系企業の利用は昨年並みに留まった。

「**運輸通信業**」**貨物輸送**は、完成車輸出はやや停滞した。海上コンテナ作業、木材(合板)の輸入は概ね順調。**バス業界関係** 秋および年末の長期連休で団体客には動きがあった。

設備投資状況は、29事業所(34件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は34事業所(45件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では、利幅の縮小、売上の停滞・減少、原材料(燃料)高、競争激化、人手不足の変化の対応が項目別で上位を占めていた。

当地区において 全国的な景気回復が当地域にも表れる。原材料高騰や円安による収益の悪化等の懸念材料もあるものの、生産額・売上額および総合判断において前年同期比・前期比で好転した企業・業種が数多く見られ、本調査において過去10年間でも最も高い水準に到った。来期は消費税増税前の駆け込み需要が見込まれるが、見通しは慎重で、4月以降以降の反動をどう緩和するか先行きに課題は多い。当所としてもアクションプラン推進等により、中小企業相談所はじめ経営支援体制を一層強化し、経済振興を図る所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

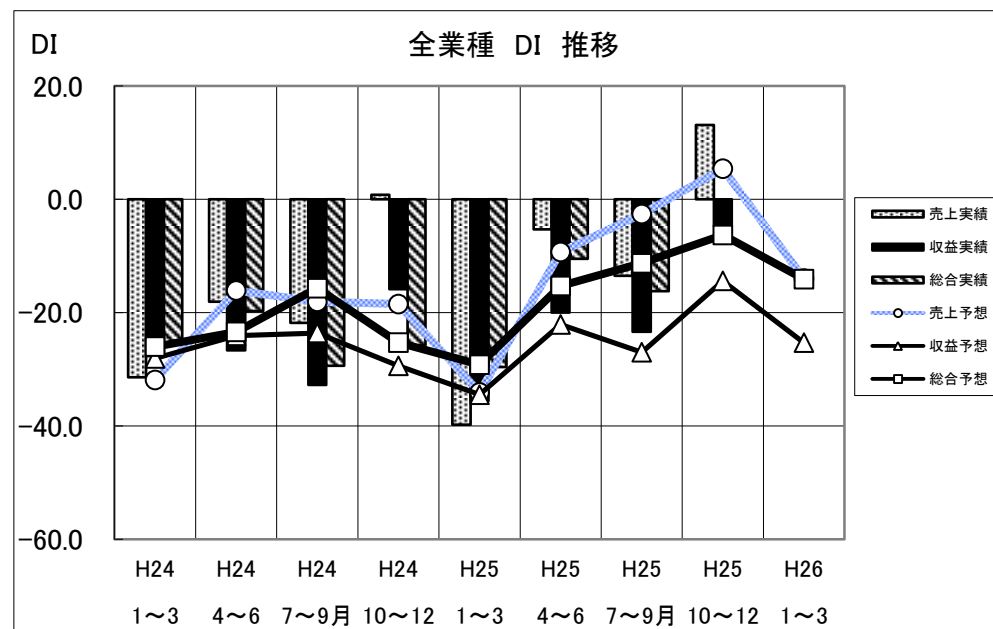
＜全業種 各項目別推移＞

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年10月～12月 に比べて	前期比 平成25年7月～10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月～3月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	3.7	13.1	-14.0	H24. 10～12月実績	-31.6	0.8	-35.8	-15.9	-33.3	-25.8	-29.2
②製品・商品在庫	-15.0	-13.1	-7.5	H25. 1～3月実績	-32.2	-39.8	-39.3	-35.6	-31.3	-29.6	-15.3
③資金繰り	-11.2	-6.5	-6.6	H25. 4～6月実績	-16.5	-5.3	-28.7	-20.0	-16.5	-10.5	-11.3
④採算(収益)	-16.8	-4.7	-25.3	H25. 7～9月実績	-18.9	-13.5	-30.6	-23.4	-18.9	-16.2	-6.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	15.9	2.8	1.0	H25. 10～12月実績	3.7	13.1	-16.8	-4.7	-5.6	0.0	-14.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-5.6	0.0	-14.1								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	H24.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H26.1~3月見通し
売上	-31.4	-18.1	-21.8	0.8	-39.8	-5.3	-13.5	13.1	-14.0
収益	-27.7	-26.7	-32.8	-15.9	-35.6	-20.0	-23.4	-4.7	-25.3
総合	-25.6	-19.7	-29.4	-25.8	-29.6	-10.5	-16.2	0.0	-14.1

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について
 DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合ー減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)ー(減少)
 製品・商品在庫 :DI=(減少)ー(増加)
 資金繰り :DI=(好転)ー(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)ー(下降)
 従業員数 :DI=(増加)ー(減少)
 業況(総合判断):DI=(好転)ー(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き
 DIが0 ⇒ 景気横ばい
 DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上 DI 6~49% DI 5~-5%

DI -6~-49% DI -50%以下

6. 業種別報告

製造業

売上DI値は26.1、前期実績7～9月期(0.0)に比して26.1ポイントの上昇、収益DI値は△6.5、前期実績7～9月期(△13.3)に比して6.8ポイントの上昇、総合判断DI値は△2.2、前期実績7～9月期(△4.5)に比して2.3ポイントの上昇と、売上・収益・総合とも改善傾向が見られた。向こう3カ月の見通し 売上は横バイ、収益・総合とも水面下で悪化の傾向にある。

製造業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成24年10月～12月 に比べて	前期比 平成25年7月～10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	17.4	26.1	-4.3
②製品・商品在庫	-15.3	-13.0	-2.1
③資金繰り	-4.3	0.0	0.0
④採算(収益)	-10.9	-6.5	-19.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	32.6	6.6	-2.2
⑥貴社の業況(総合判断)	4.4	-2.2	-13.0

[食料品]

売上は、年末の需要期に入り前期比DI値は80.0%と好転。前年同期比でもDI値20.0%と改善の傾向。一方収益は、前期比DI値では0.0%と横バイだが、前年同期比ではDI値△40.0%と悪化しており、原材料価格の上昇を訴える企業が多く、収益を圧迫している。総合判断では、前期比DI値は20.0%と好転しているが、前年同期比ではDI値△40.0%と悪化

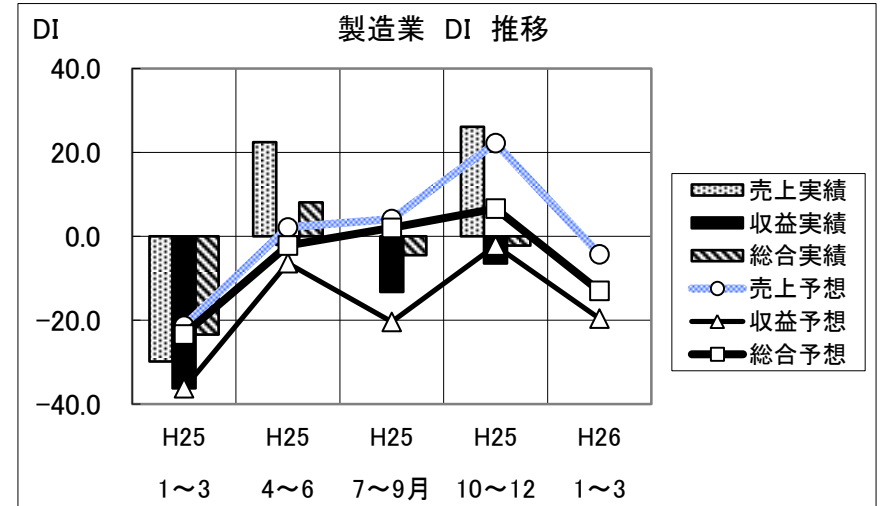
向こう3カ月の見通し 年末の需要期を過ぎて売上はDI値△40.0%と一転して悪化。収益DI値△80.0%、総合判断DI値△40.0%と業況は厳しくなることが予想される。

国内の食品業界は、海外製品との競争にさらされているが、原材料コストの負担感が高まるなど厳しい経営環境下にあって、いかに消費者ニーズを捉えた商品を提供できるかが課題となっている。蒲郡みかんや三河湾産アサリなど地産食材を活用した商品展開に力を入れている企業も見られ、今後地域性を売りにした商品開発の動きが期待される。

(食料品)

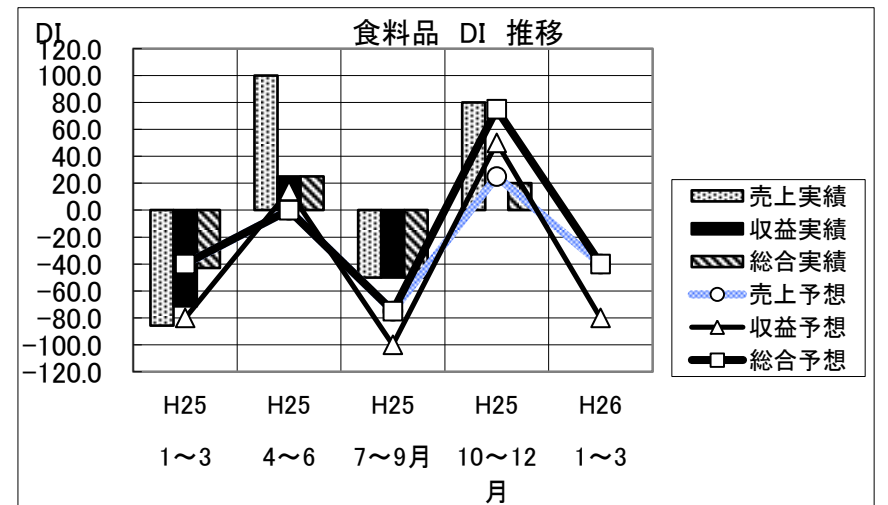
(DI 単位: %)

	前年同期比 平成24年10月～12月 に比べて	前期比 平成25年7月～10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	20.0	80.0	-40.0
②製品・商品在庫	-40.0	-40.0	-20.0
③資金繰り	-40.0	0.0	-20.0
④採算(収益)	-40.0	0.0	-80.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	60.0	0.0	-20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-40.0	20.0	-40.0



<業況判断DIの推移>

	H25.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H26.1～3月見通し
売上	-29.8	22.4	0.0	26.1	-4.3
収益	-36.2	-2.1	-13.3	-6.5	-19.6
総合	-23.4	8.1	-4.5	-2.2	-13.0



<業況判断DIの推移>

	H25.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H26.1～3月見通し
売上	-85.7	100.0	-50.0	80.0	-40.0
収益	-71.4	25.0	-50.0	0.0	-80.0
総合	-42.9	25.0	-50.0	20.0	-40.0

【織物】

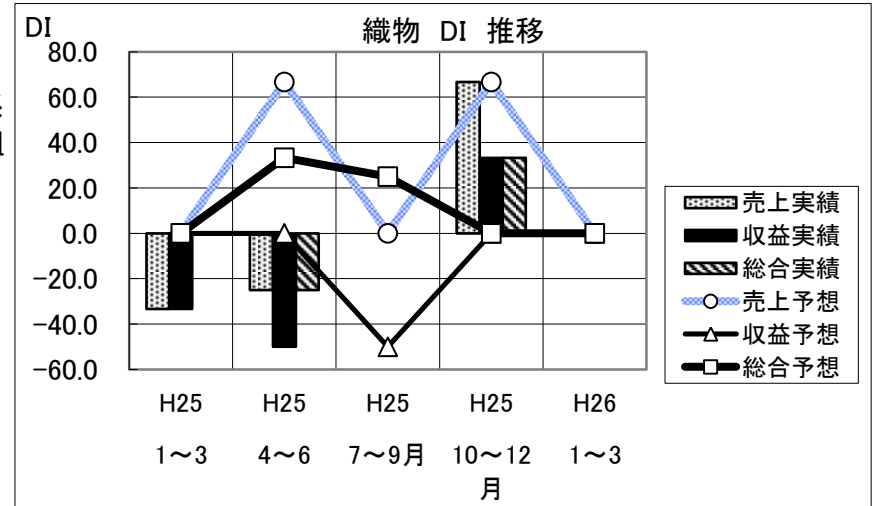
春夏商材の寝装品はシーズンオフに限らず活況で、1～3月はフル稼働の状況。7～9月ショートした分が継続している。インテリア・ドレープカーテンは相変わらず悪い。産業資材は車両関係のシートカバー等が一部入っている。広幅テーブルクロスも堅調。今年一年は、積極的に取り組んだ事業所と消極的な事業所の差が表れた一年であった。

向こう3カ月の見通し 寝装品機屋はフル稼働、インテリア・ドレープカーテンは採算が悪すぎる。機屋も選択される時代に入った。設備投資も可能なムードになりつつあるが、1～3月はサイジング代の10%アップがあり、4月からの電気料金値上げ・消費税増税等の悪影響を懸念。

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年10月～12月 に比べて	前期比 平成25年7月～10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	33.3	66.7	0.0
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-33.3
③資金繰り	33.3	33.3	0.0
④採算(収益)	33.3	33.3	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	33.3	33.3	0.0



<業況判断DIの推移>

	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H26.1~3月見通し
売上	-33.4	-25.0	0.0	66.7	0.0
収益	-33.3	-50.0	0.0	33.3	0.0
総合	0.0	-25.0	0.0	33.3	0.0

【漁網・ロープ】

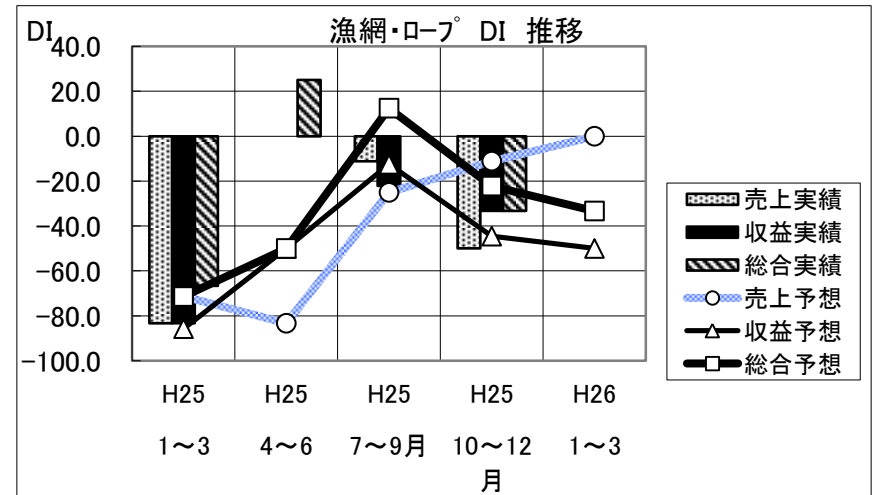
漁網・ロープは震災の復興需要も終わり、全体的に魚価安・不漁で落ち込んでいる。建築は首都圏を中心に物件有・例年になく活況。土木は程々の動きはある。自動車は昨年比減少傾向。

向こう3カ月の見込み 漁網・ロープは、1～3月までは仕事確保しているが5月以降不透明。建築は例年仕事少ない時期だが、来期以降は多忙な見込み。土木は動きが鈍い。自動車には増加を期待している。

(漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年10月～12月 に比べて	前期比 平成25年7月～10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-66.6	-50.0	0.0
②製品・商品在庫	-50.0	-50.0	-33.3
③資金繰り	-33.3	-33.3	-33.3
④採算(収益)	-83.3	-33.3	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-33.3	-33.3



<業況判断DIの推移>

	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H26.1~3月見通し
売上	-83.3	0.0	-11.1	-50.0	0.0
収益	-83.3	0.0	-22.2	-33.3	-50.0
総合	-66.7	25.0	0.0	-33.3	-33.3

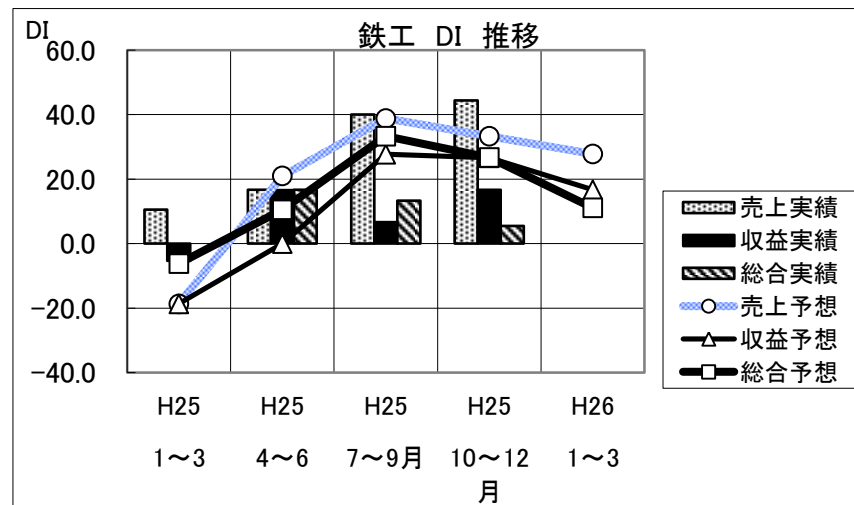
[鉄工]

＜工作機械関係＞ 国内生産の現状は、消費税増税前の一時的な駆け込み需要もあり、9月以降内需の著しい増加がみられ薄日が差してきた状況。工作機械受注統計によると、受注は10月1,022億円、11月1,017億円と9月以降1,000億円をキープし順調に推移している。今後の見通し 消費税増税前の一時的な駆け込み需要が減少することで、10%程度の落ち込みが見込まれるものの、その後は投資減税の実施や円安を背景とした輸出企業からのオフアが見込まれることから、各社とも増加傾向の見込みである。

＜自動車部品関係＞ 国内生産の現状は、トヨタの日当たり生産を参考とすると、10月12,727台、11月13,000台、12月12,778台と堅調に推移している。今後の見通し 毎年の需要期前における増産に加え、消費税増税前の駆け込み需要が見込まれることから、トヨタの日当たり国内生産見込みが、1月13,810台、2月14,286台、3月14,286台と近年のピークに近づく事から各社増産が見込まれる。しかし、「原価低減活動」が厳しい事より、生産に比例した増益は見込めない。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年10月～12月 に比べて	前期比 平成25年7月～10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	50.0	44.4	27.8
②製品・商品在庫	11.1	16.6	22.2
③資金繰り	11.1	16.7	11.1
④採算(収益)	16.6	16.7	16.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	50.0	5.5	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	38.8	5.5	11.1



＜業況判断DIの推移＞

	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H26.1~3月見通し
売上	10.5	16.7	40.0	44.4	27.8
収益	-5.3	16.6	6.7	16.7	16.7
総合	0.0	16.7	13.3	5.5	11.1

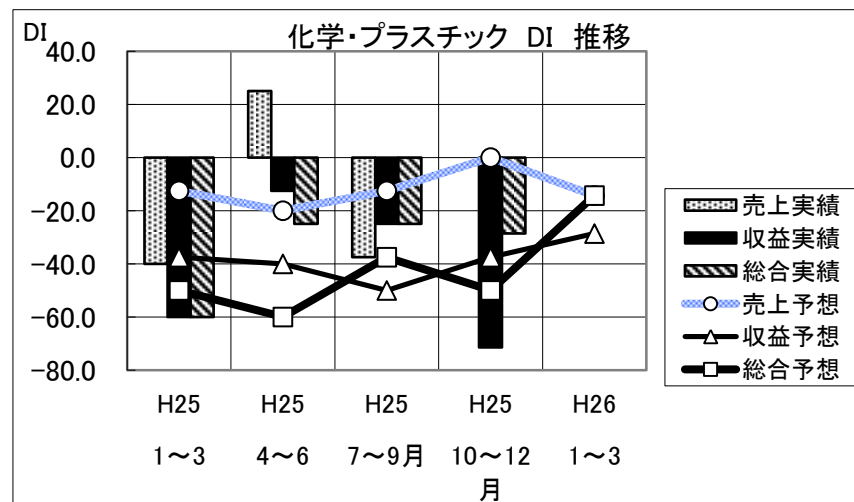
[化学・プラスチック]

＜化学工業＞ 円安、原油高、さらに11月に発生したフィリピン台風の影響による原材料価格の上昇によって収益性が悪化している。向こう3カ月の見通し 円安傾向は続いていくと考えられるため、収益性の回復が難しいと思われる。

＜プラスチック＞ 売り上げは順調に増加しているが、原材料高と円安で採算が下降気味。向こう3カ月の見通し 円安と原油価格高騰による採算悪化が懸念され、価格転嫁を進めて行きたい。(化学部会)

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年10月～12月 に比べて	前期比 平成25年7月～10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	0.0	-14.3
②製品・商品在庫	-28.6	-28.6	0.0
③資金繰り	-28.6	-28.6	14.3
④採算(収益)	-28.6	-71.4	-28.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-28.6	-28.6	-14.3



＜業況判断DIの推移＞

	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H26.1~3月見通し
売上	-40.0	25.0	-37.5	0.0	-14.3
収益	-60.0	-12.5	-25.0	-71.4	-28.6
総合	-60.0	-25.0	-25.0	-28.6	-14.3

建設業

売上DI値は40.0、前期実績7～9月期(△22.2)に比して62.2ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績7～9月期(△34.4)に比して33.4ポイントの上昇、総合判断DI値は20.0、前期実績7～9月期(△11.1)に比して31.1ポイントの上昇。夏以降状況が大きく好転し、公共工事・民間工事ともに増加。売上・収益・総合ともに好転しており、建設資材の不足および高騰と、下請作業員(特に型枠工、鉄筋工、内装工事等)の不足が課題となっている。その影響で、公共事業の入札が不調に終わるケースも見られている。
向こう3カ月の見通し 当面の仕事量はあるが先行きは不透明。原材料価格の急騰や人手不足等の懸念も続くと考えられ、DIは売上・収益・総合とも悪化傾向にある。当地域において、引き続き道路・港湾等インフラ整備の着実な進捗を願う。(建設部会)

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年10月～12月 に比べて	前期比 平成25年7月～10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	40.0	40.0	-40.0
②製品・商品在庫	0.0	10.0	20.0
③資金繰り	0.0	0.0	-10.0
④採算(収益)	40.0	0.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-10.0	-10.0
⑥貴社の業況(総合判断)	40.0	20.0	-10.0

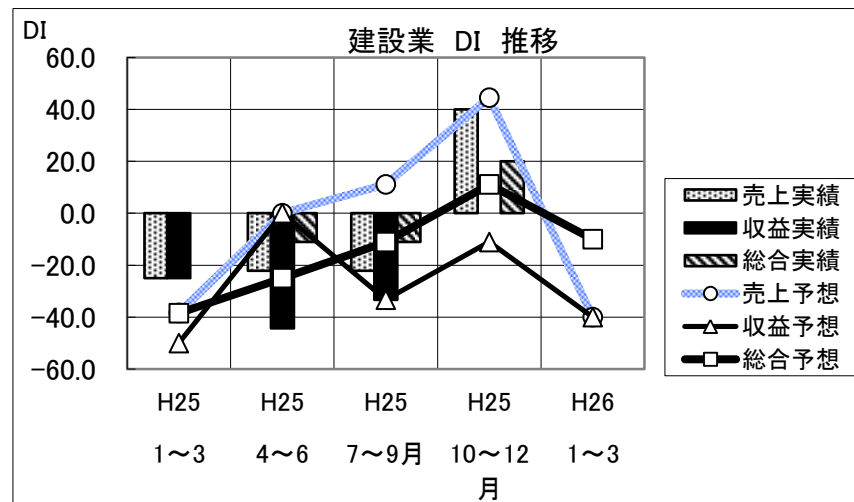
卸売業

売上DI値は28.6、前期実績7～9月期(7.2)に比して21.4ポイントの上昇。収益DI値は14.3、前期実績7～9月期(7.2)に比して7.1ポイントの上昇、総合判断DI値は21.4、前期実績7～9月期(7.1)に比して14.3ポイントの上昇と、売上・収益・総合共に改善傾向である。
向こう3カ月の見通し 年末の需要期を抜けて、売上・収益・総合ともに悪化傾向となっている。

卸売業

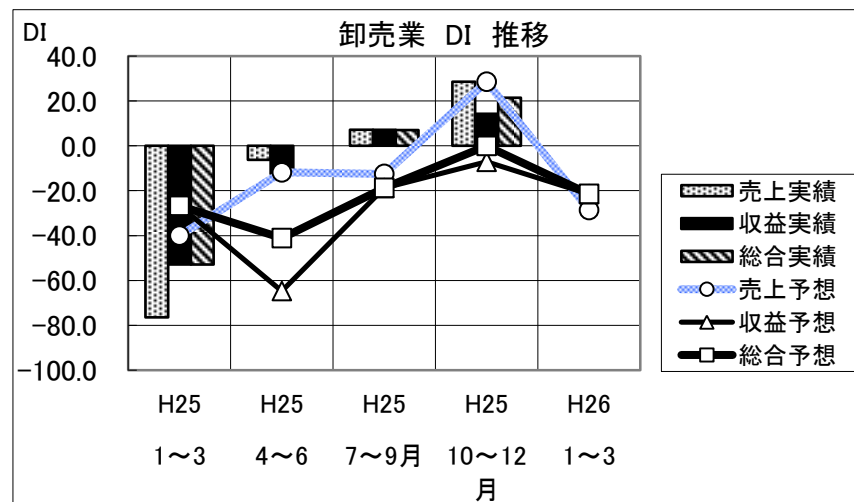
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年10月～12月 に比べて	前期比 平成25年7月～10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	7.2	28.6	-28.6
②製品・商品在庫	-42.9	-42.9	-42.9
③資金繰り	-7.1	0.0	-7.1
④採算(収益)	-14.3	14.3	-21.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	7.2	7.1
⑥貴社の業況(総合判断)	7.1	21.4	-21.4



<業況判断DIの推移>

	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H26.1~3月見通し
売上	-25.0	-22.2	-22.2	40.0	-40.0
収益	-25.0	-44.4	-33.4	0.0	-40.0
総合	0.0	-11.1	-11.1	20.0	-10.0



<業況判断DIの推移>

	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H26.1~3月見通し
売上	-76.5	-6.3	7.2	28.6	-28.6
収益	-52.9	-12.5	7.2	14.3	-21.5
総合	-52.9	0.0	7.1	21.4	-21.4

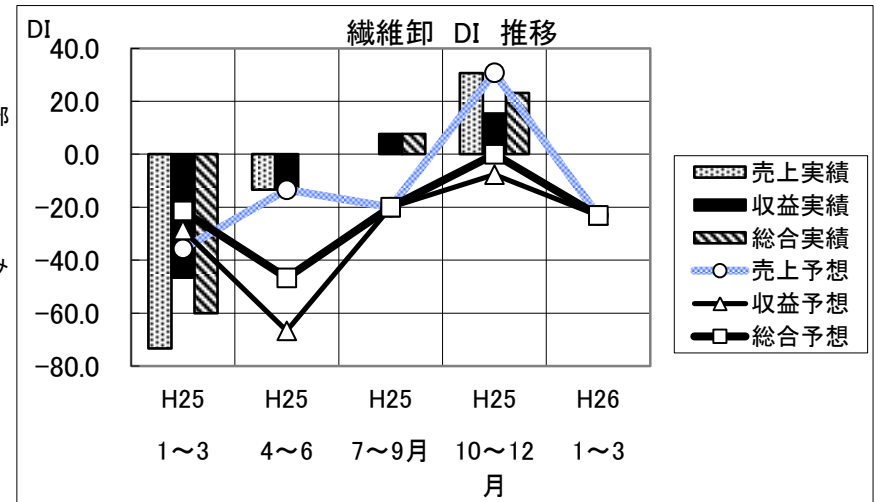
[繊維卸]

<産業資材関連>アベノミクス&東京五輪効果、消費増税前の駆け込みか荷動きが活発に。春向けの輸入品原材料高による価格転嫁も進める。向こう3カ月の見通し 消費増税前の駆け込み需要に期待。特に家屋・車・電子/家電品等の高額品に期待も、4月以降の落ち込みを懸念。<寝装関連> 厳冬に比例して売上は増加も、急激な伸びに在庫が対応せず一部機会ロスが発生。その後冷え込みの落ち着きと年末年始セール前の買い控えて売り上げは一段落。ただし、現在販売している商品は春先からの円安で輸入品の採算は悪化。為替の円安、中国の件費高騰、原料市場高騰、海上・国内運賃の高騰など業界を取り巻く環境は非常に厳しい。向こう3カ月の見通し 消費増税前の駆け込み需要に期待も、4月以降の反動を懸念。為替円安基調で採算好転は期待薄。<インテリア関連> インテリアは秋冬のシーズンインで出荷量増加。円安で商品調達コストが増加し利幅を圧迫。向こう3カ月の見通し 就進学・新築需要に向けて期待。消費増税前の駆け込み需要に期待すると共に、増税後を見据えた在庫調整が必要。<衣料関連> 衣料用生地でレーヨン素材、ドビーステッチ、ジャガード好調。これらの付加価値商品は利益が上がるが、資材・寝装用生地は原材料高で苦戦。向こう3カ月の見通し 衣料用生地でレーヨン素材、ドビーステッチ、ジャガードは好調も原材料高で採算悪化を予想。(繊維部会)

(繊維卸)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成24年10月~12月 に比べて	前期比 平成25年7月~10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	30.7	-23.1
②製品・商品在庫	-46.2	-38.5	-46.2
③資金繰り	-7.7	0.0	-7.7
④採算(収益)	-15.4	15.4	-23.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	7.7	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	7.7	23.1	-23.1



<業況判断DIの推移>

	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H26.1~3月見通し
売上	-73.3	-13.4	0.0	30.7	-23.1
収益	-46.6	-13.4	7.7	15.4	-23.1
総合	-60.0	0.0	7.7	23.1	-23.1

小売業

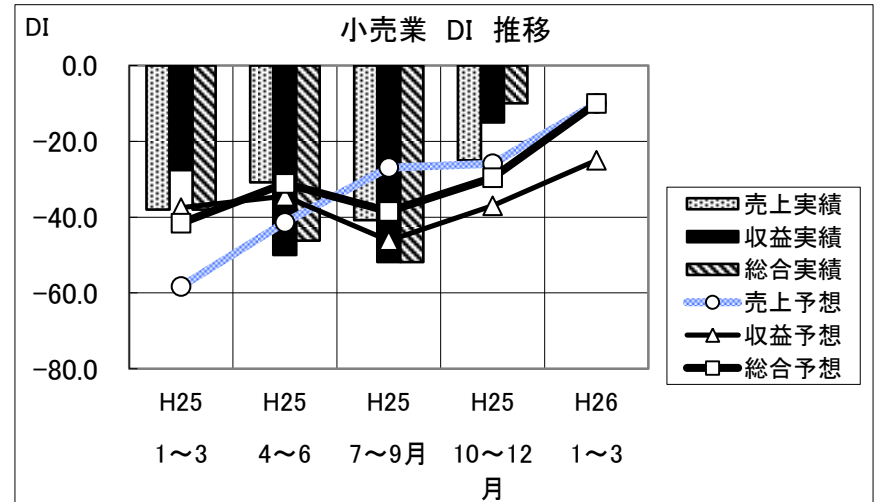
売上DI値は△25.0、前期実績7~9月期(△40.8)に比して15.8ポイントの上昇。収益DI値は△15.0、前期実績7~9月期(△51.9)に比して36.9ポイントの上昇、総合判断DI値は△51.9、前期実績7~9月期(△10.0)に比して41.9ポイントの上昇と、水面下ながら売上・収益・総合ともに改善傾向が見られた。向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合判断とも水面下の厳しい見通しである。

お歳暮等の贈答品では、昨年より高額品の動きは多少活発であったが、依然として消費意欲は停滞気味で、景気回復が個人消費に繋がるのはまだ先か。向こう3カ月の見通し 消費税増税前の駆け込み需要も、日用品等にはさほど影響がないと見られ、変わらず厳しい見通しである。(商業部会)

小売業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成24年10月~12月 に比べて	前期比 平成25年7月~10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-50.0	-25.0	-10.0
②製品・商品在庫	-15.0	-15.0	-5.0
③資金繰り	-25.0	-15.0	-20.0
④採算(収益)	-50.0	-15.0	-25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-45.0	-10.0	-10.0



<業況判断DIの推移>

	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H26.1~3月見通し
売上	-38.0	-30.8	-40.8	-25.0	-10.0
収益	-27.6	-50.0	-51.9	-15.0	-25.0
総合	-38.0	-46.2	-51.9	-10.0	-10.0

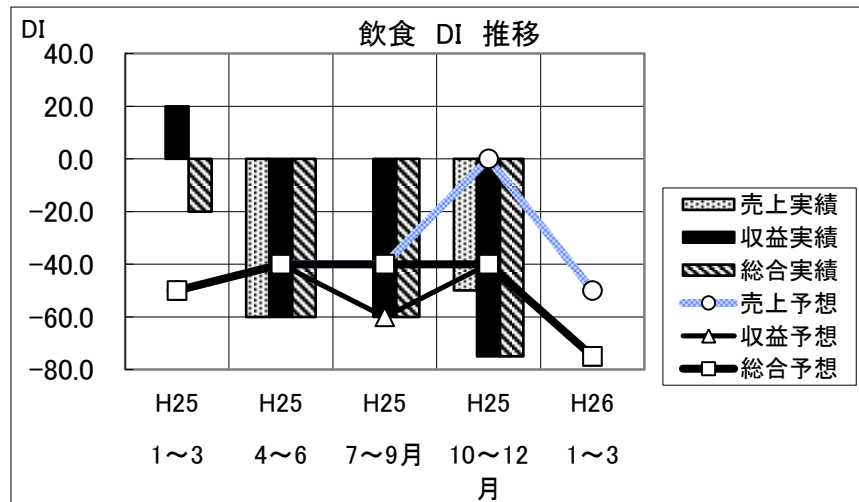
[飲食]

今年の忘年会は、近況の景気回復感もあり、例年より若干の増加傾向にあったが、一方で、新年会は、例年並みで推移している。世間では景気回復と言われているが、夜の外出が極端に増えている訳ではなく、飲食店に関して言えば、若干の恩恵を受けている程度と感じている。全国ご当地うどんサミットでグランプリを獲得した「ガマゴリうどん」を販売する飲食店が蒲郡市内にもできた。販売が開始されたばかりなので、数はまだまだ少ないが、知名度向上に努力して今後に期待。向こう3カ月の見通し 予約等は、まだまだ先の話だが、忘年会や新年会同様に節目の行事であり、今年の忘年会の増加傾向を見ると、少なくとも前年並以上を期待している。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成24年10月～12月 に比べて	前期比 平成25年7月～10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-25.0	-50.0	-50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	-25.0	-25.0
④採算(収益)	-50.0	-75.0	-75.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	25.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-75.0	-75.0	-75.0



<業況判断DIの推移>

	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H26.1~3月見通し
売上	0.0	-60.0	0.0	-50.0	-50.0
収益	20.0	-60.0	-60.0	-75.0	-75.0
総合	-20.0	-60.0	-60.0	-75.0	-75.0

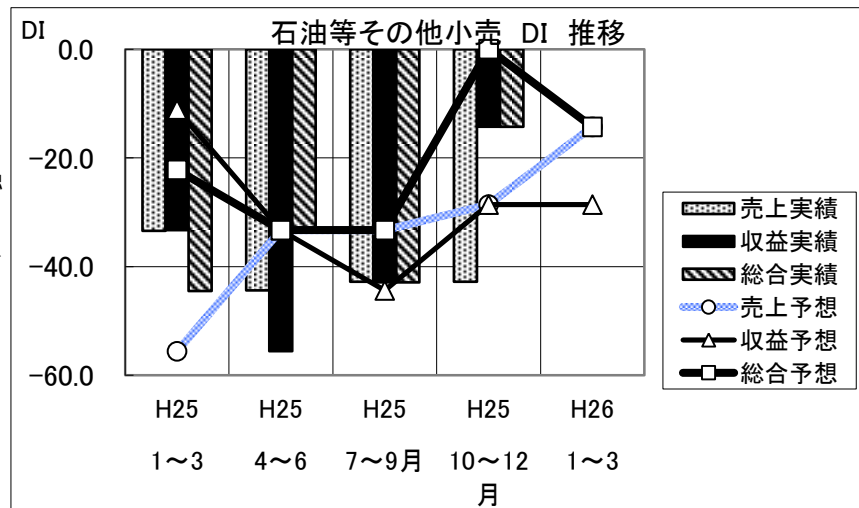
[石油等その他小売]

価格動向は9月以降下落、原油価格(WTI期近物)は9月以降、地政学リスクの後退や米国の原油在庫増加で下落傾向。原油価格は9月上旬に110ドル台の高値をつけたが米国のシリアへの軍事介入に対する懸念後退や米財政協議難航を受け下落。11月中旬以降は米国の原油在庫の増加で、原油価格は93ドル5月以来の安値水準で推移。11月24日、イランと欧米など6カ国による核協議の合意で供給懸念が緩和されるも原油輸出解禁は見送られ下げ幅は限定的。原油先物市場における投機筋の買い越し額をみると8月以降縮小傾向にあったが足元では再び拡大し、過去最高水準にある。5月下旬から9月中旬にかけて、米量的金融緩和の早期縮小観測の高まりを受け新興国の為替相場と株価は大きく変動したが、地政学リスクによる供給懸念が強く意識され原油市場への影響は小さかった。向こう3カ月の見通し 価格の見通しは、原油価格は四半期平均で96~99ドル台で推移と予想。先進国景気は緩やかな回復傾向を迎える一方、中国を始めとする新興国景気はやや鈍化する見込み。供給面では、リビアやイランの原油生産の低水準推移が見込まれるが、米国やカナダ、ロシアといった非OPEC諸国の生産拡大が続くとみられ、世界の原油需給バランスは緩和した状態。しかしながら、シリアやイランなど中東・アフリカ産油国の地政学リスクを背景に供給懸念が根強い状況が続くとみられ、価格を下支えしよう。原油価格は四半期平均96~99ドル台で推移する予想。(エネルギー部会)

(石油等その他小売)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成24年10月～12月 に比べて	前期比 平成25年7月～10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-85.7	-42.8	-14.3
②製品・商品在庫	-14.3	-14.3	-14.3
③資金繰り	-28.6	0.0	0.0
④採算(収益)	-71.4	-14.3	-28.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-14.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-57.1	-14.3	-14.3



<業況判断DIの推移>

	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H26.1~3月見通し
売上	-33.4	-44.4	-42.8	-42.8	-14.3
収益	-33.3	-55.6	-42.9	-14.3	-28.6
総合	-44.5	-33.3	-42.9	-14.3	-14.3

サービス業

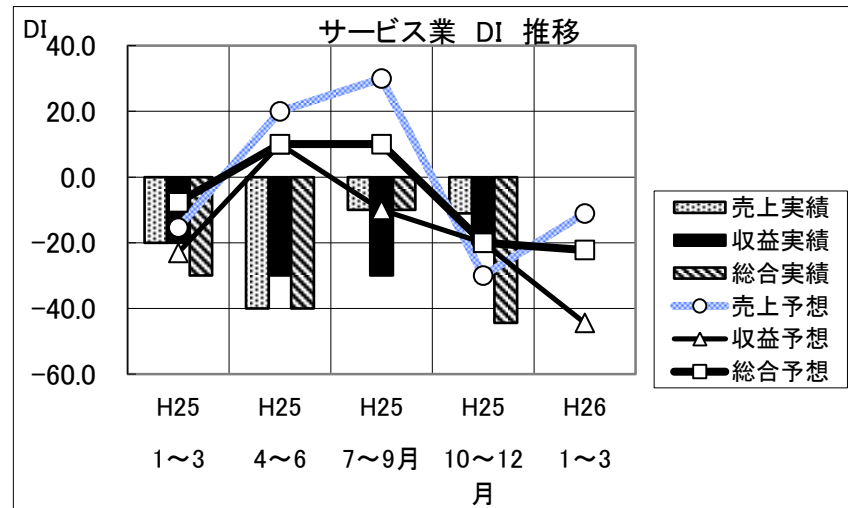
売上DI値は△11.1、前期実績7～9月期(△10.0)に比して1.1ポイントの下降、収益DI値は△22.2、前期実績7～9月期(△30.0)に比して7.8ポイントの上昇、総合判断DI値は△44.4、前期実績7～9月期(△10.0)に比して34.4ポイントの下降と、収益DIはやや改善されたものの、売上・収益・総合ともに水面下の厳しい状況であった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに水面下の状態である。

サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年10月～12月 に比べて	前期比 平成25年7月～10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-33.4	-11.1	-11.1
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-55.6	-44.4	-11.1
④採算(収益)	-44.5	-22.2	-44.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-44.4	-44.4	-22.2



<業況判断DIの推移>

	H25.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H26.1～3月見通し
売上	-20.0	-40.0	-10.0	-11.1	-11.1
収益	-20.0	-30.0	-30.0	-22.2	-44.4
総合	-30.0	-40.0	-10.0	-44.4	-22.2

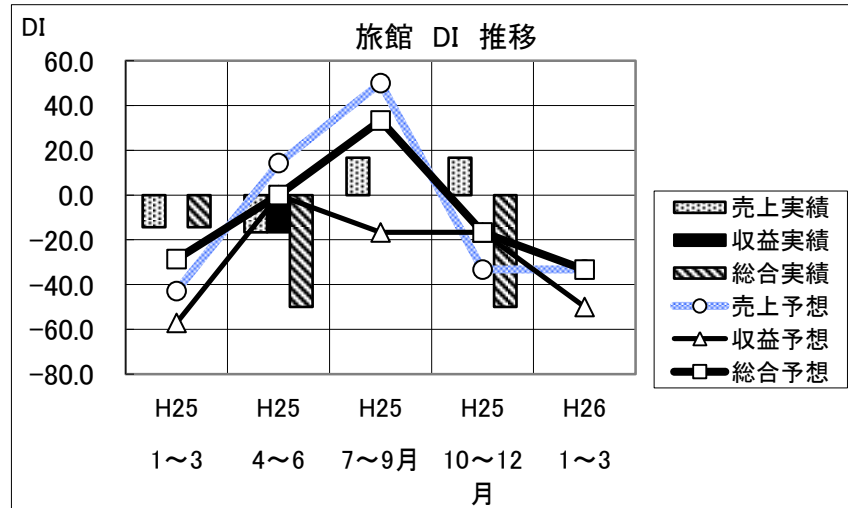
【旅館】

今年は当地域に大きなイベント等がないものの、今年3月から開催されているラグーナ蒲郡のスタジオジブリの立体造形物展覧が好調。また、伊勢神宮の式年遷宮による団体客も僅かではあるが入っている。最も大きな影響があるトヨタ系企業の忘年会について、今年は期待されたが概ね昨年並みで推移した。向こう3カ月の見通し 年末年始のカレンダーの並びが良く、期間中のお客様は増加。団体は新年会を中心に明るさが見えて来た。特にトヨタ系企業が増えつつある。平成26年度はトヨタ企業中心に消費が増える事を期待する。(観光部会)

(旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年10月～12月 に比べて	前期比 平成25年7月～10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	16.7	-33.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-50.0	-50.0	-16.7
④採算(収益)	-16.6	0.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-50.0	-33.3



<業況判断DIの推移>

	H25.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H26.1～3月見通し
売上	-14.3	-16.7	16.7	16.7	-33.3
収益	0.0	-16.6	0.0	0.0	-50.0
総合	-14.3	-50.0	0.0	-50.0	-33.3

運輸通信業

売上DI値は0.0、前期実績7～9月期(△33.3)に比して33.3ポイントの上昇、収益DI値は12.5、前期実績7～9月期(△16.6)に比して29.1ポイントの上昇、総合判断DI値は25.0、前期実績7～9月期(△16.6)に比して41.6ポイントの上昇と、DIは売上・収益・総合ともに改善傾向であった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合とも悪化傾向にあり見通しは厳しい。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年10月～12月 に比べて	前期比 平成25年7月～10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	50.0	0.0	-25.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-25.0
③資金繰り	12.5	0.0	0.0
④採算(収益)	-12.5	12.5	-25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	25.0	-12.5

[旅客・貨物輸送・水運]

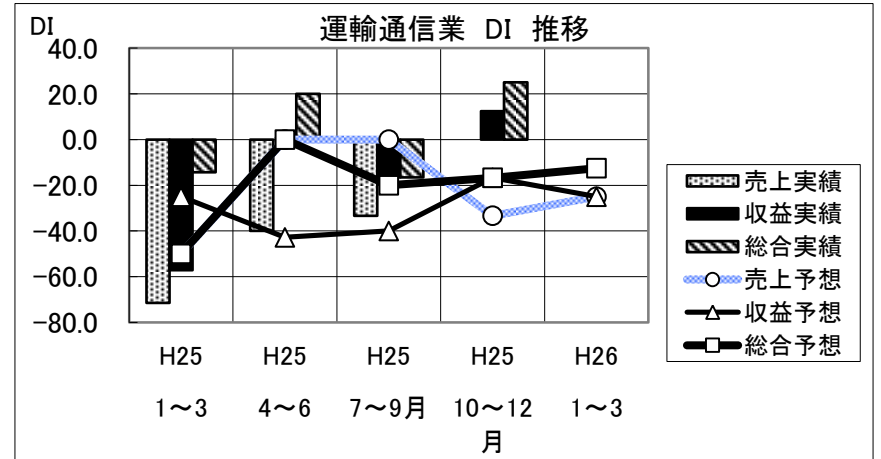
＜貨物輸送＞ 三菱自動車に関しては北米の売上が停滞し、船積台数も12月から減少。海上コンテナ作業、木製品(合板)の輸入に関しては概ね順調である。向こう3カ月の見通し 向こう3カ月は完成車輸出台数は4,000～5,000台で推移する見込み。その他海上コンテナ作業、輸入に関しても現状維持の見通し。

＜バス業界関係＞ 秋の行楽シーズンおよび年末年始の大型連休で団体は堅調であった。向こう3カ月の見通し 年末年始を抜けて売上等はやや停滞する傾向である。(運輸交通港湾部会)

(旅客・貨物輸送・水運)

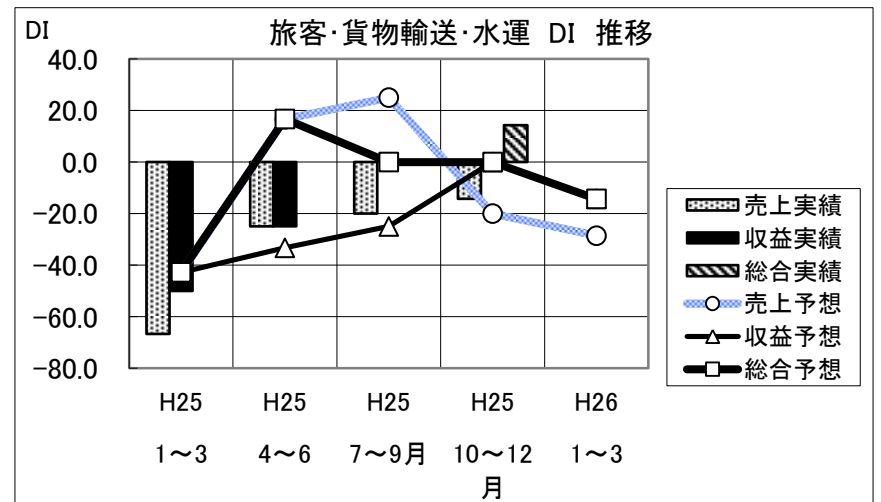
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年10月～12月 に比べて	前期比 平成25年7月～10月 に比べて	来期見通し 平成26年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	71.4	-14.3	-28.6
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-28.6
③資金繰り	14.3	0.0	0.0
④採算(収益)	0.0	0.0	-14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	14.3	14.3	-14.3



＜業況判断DIの推移＞

	H25.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H26.1～3月見通し
売上	-71.4	-40.0	-33.3	0.0	-25.0
収益	-57.1	0.0	-16.6	12.5	-25.0
総合	-14.3	20.0	-16.6	25.0	-12.5

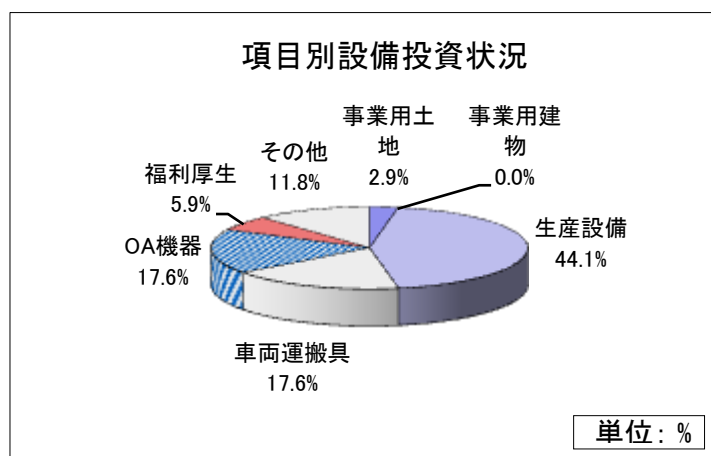
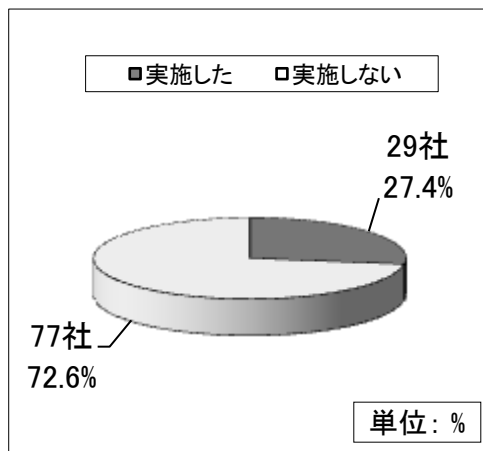


＜業況判断DIの推移＞

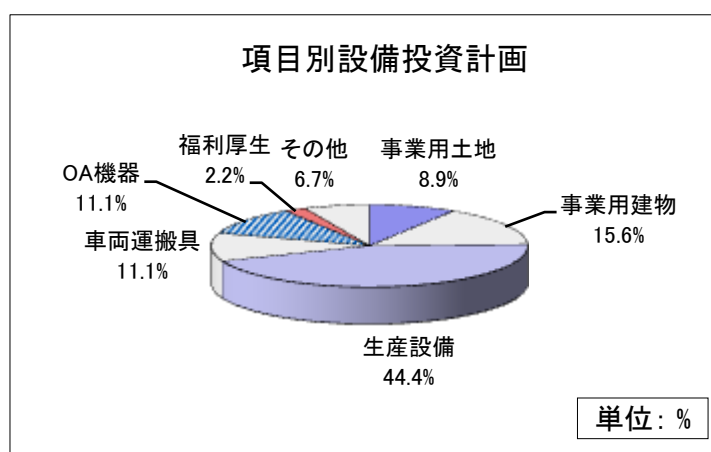
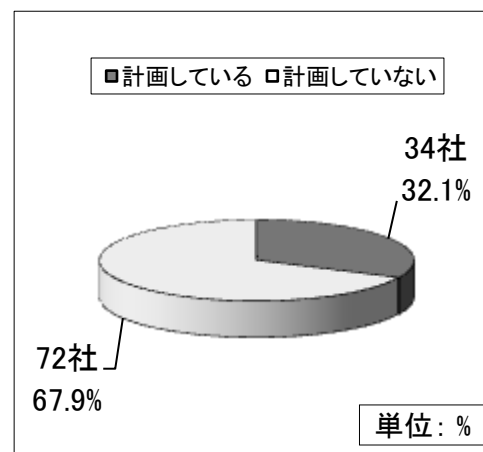
	H25.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H26.1～3月見通し
売上	66.7	-25.0	-20.0	-14.3	-28.6
収益	50.0	-25.0	0.0	0.0	-14.3
総合	0.0	0.0	0.0	14.3	-14.3

7. 設備投資動向

＜今期(H25. 10～12月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H26. 1～3月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	1	4
事業用建物	0	7
生産設備	15	20
車両運搬具	6	5
OA機器	6	5
福利厚生	2	1
その他	4	3
計	34	45

(単位:件)

◎今期(H25.10～12月)、来期(H26.1～3月)設備投資実施、計画動向

(単位:事業所)

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H25. 10～12月)	29	15	1	3	3	3	4
2. 来期 (H26. 1～3月)	34	18	0	5	1	4	6

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 107 社)

	項目	件数 %
1	利幅の縮小	64 59.8%
2	売上の停滞・減少	55 51.4%
3	原材料(燃料)高	53 49.5%
4	競争激化	37 34.6%
5	人手不足	12 11.2%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 46 社	利幅の縮小 26 社 56.5%	原材料(燃料)高 22 社 47.8%	売上の停滞・減少 21 社 45.7%
建設業 10 社	利幅の縮小 8 社 80.0%	売上の停滞・減少 4 社 40.0%	競争激化 4 社 40.0%
卸売業 14 社	原材料(燃料)高 12 社 85.7%	利幅の縮小 9 社 64.3%	売上の停滞・減少 8 社 57.1%
小売業 20 社	売上の停滞・減少 13 社 65.0%	利幅の縮小 13 社 65.0%	競争激化 9 社 45.0%
サービス業 9 社	売上の停滞・減少 6 社 66.7%	利幅の縮小 5 社 55.6%	原材料(燃料)高 4 社 44.4%
運輸通信業 8 社	原材料(燃料)高 7 社 87.5%	売上の停滞・減少 3 社 37.5%	競争激化 3 社 37.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)